



2019年11月15日

赤い羽根の中央共同募金会

## 令和元年台風15号に伴う 災害ボランティア・NPO活動サポート募金（災害ボラサポ・台風15号） 第1回助成決定にあたって

### はじめに

令和元年9月9日未明に関東地方に上陸した「台風15号」は、千葉県を中心に関東地方近郊に、電力・水道等のライフラインに甚大な影響を与え、多くの家屋の損害等の被害が発生しました。

この台風災害により亡くなられた方々に心よりお悔み申し上げます。また被害を受けられた方々には謹んでお見舞い申し上げます。被災された方々と被災地域の復旧を心よりお祈り申し上げます。

被害の大きかった東京都、千葉県では、災害ボランティアセンターが開設され、ボランティアグループやNPO等による、救援・復旧・復興のための支援活動が行われました。現在でも被害の大きかった千葉県を中心に特に家屋のブルーシート張りの支援が必要とされており、ボランティアによる支援活動が続いている地域があります。

こうした状況を受けて、赤い羽根の中央共同募金会では、被災地で活動するボランティアグループ、NPO等を資金面で支援するため、「災害ボラサポ・台風15号（令和元年台風15号に伴う 災害ボランティア・NPO活動サポート募金）」を実施することとしました。

11月7日、災害ボラサポ・台風15号の第1回目の助成先を決める運営・審査委員会（以下委員会）を開催し、30件、合計1,296万円の助成を決定いたしました。

被災地ではその後の台風19号の影響もあり、まだまだ課題が山積している状況ですが、本助成を活用し、被災地の問題解決の一助となることを期待しております。

### 1. 第1回応募状況と助成決定状況

9月17日から開始した第1回目の助成公募では、36件、合計1,599万円の応募がありました。

今回の応募では、一番多かった活動内容はボランティアセンター、避難所の運営支援でした。続いて被災家屋等の片づけ、被災者のための物資の運搬・仕分け・提供でした。

その活動地域は、全体の応募の19.4%が千葉県南房総市、16.7%が千葉県館山市、ついで千葉県富津市が13.9%、千葉県鴨川市が12.5%、千葉県鋸南町が11.1%となりました。他にも神奈川県や栃木県での活動も見られました。被災規模が大きかった千葉県では特に屋根の被害が大きく、屋根に上って作業できる団体からの応募が多くみられました。

活動団体の所在地は、15都府県にわたり、全国から支援団体が被災地に駆けつけていました。最も多かったのは東京都（20.0%）ですが、ついで埼玉県13.3%、千葉県、神奈川県10.0%となっており、首都圏近郊の所在する団体が千葉の支援にあたっていることが伺えます。

### 2. 選考にあたっての考え方

第1回の選考では、応募要項に記載したとおり、「審査にあたって重視する点」として、以下の7項目に重点を置き審査を行いました。

- ①目標や問題意識が明確になっているか
- ②プロジェクトを実施するための手法が明確で適切か
- ③さまざまな人たちの参加と協力が得られているか
- ④災害ボランティアセンター等現地の団体や現地に拠点を置く団体と連携や協働により活動を行っているか
- ⑤被災地で暮らす人たちの潜在的な力を引き出し、高めていこうとしているか
- ⑥被災地での新しい社会的事業・活動へと発展する可能性があるか
- ⑦「この先」を意識した活動であるか

また、発災時からの活動から遡っての助成も行うこととしており、活動団体や現地の状況を確認するため、必要に応じて聞き取り調査を別途させていただきました。

### 3. 今後の予定について

被災地は台風15号災害だけでなく、東日本の広範な地域で多くの被害をもたらした台風19号災害でも大きな被害を受けました。復興にあたり、まだまだ多くの支援を必要としており、ボランティアの力を求めていることから、「災害ボラサポ・台風15号」による助成は今回で終了し、今後の助成は「災害ボラサポ・台風19号」に含めて実施することといたしました。「災害ボラサポ・台風19号」の短期活動は助成上限50万円の公募を11月25日（月）を締切りとして受け付けていますが、これに加えて中長期活動として活動期間31日以上、助成上限300万円の公募の受付を11月15日（金）～12月8日（日）で行うことを予定しています。詳しくは本会ホームページに掲載する応募要項をご覧ください。（中央共同募金会ホームページ：<http://www.akaihane.or.jp/>）

「災害ボラサポ」の助成の特色は、5名以上のグループでの応募が可能なことです。法人格の有無は問いません。次の社会を担う若い世代の皆さんをはじめ、多くの皆さまからの応募を期待しております。

これまで、災害ボラサポでは、特に大規模な災害において、助成を実施してきましたが、全国でさまざまな規模や形の災害が多発していることに鑑み、大規模な地震災害以外の災害や平時の防災に関する取り組みなどにも対応できるよう、しくみや体制を整えることの検討を行っています。

最後となりましたが、発災直後より全国の個人・企業の皆さまより多くのご寄付をいただきました。深く感謝するとともに、今回、助成が決定した団体の皆さまにおかれては、寄付者の方がたから託された貴重な財源による助成であることを理解いただき、有意義な活動を展開されるよう望みます。

災害ボランティア・NPO活動サポート募金  
運営審査委員会 委員長 山崎 美貴子